

湯浅コレクション④



月岡芳年
芳年武者无類
日本武尊 川上梟師



五渡亭国貞
東海道五十三次之内
宮之図



五渡亭国貞
景清 市川海老蔵

浮世絵は、画作者名と押された印(極印、名主印、年月印、改印等)で年月を判定。
版元も商標で見分けられる。但し、明治8年9月3日改印制度廃止以降は文字で明記。
『浮世絵の基礎知識』吉田漱著 雄山閣 1987年 『浮世絵の見方』吉田漱著 溪水社 1977年

歌川国貞

(ウタガワ クニサダ)

天明6(1786)年～ 元治元(1865)年
初代豊国の弟子。五渡亭国貞時代の
猫背猪首の美人画と役者絵に名品が
多い。

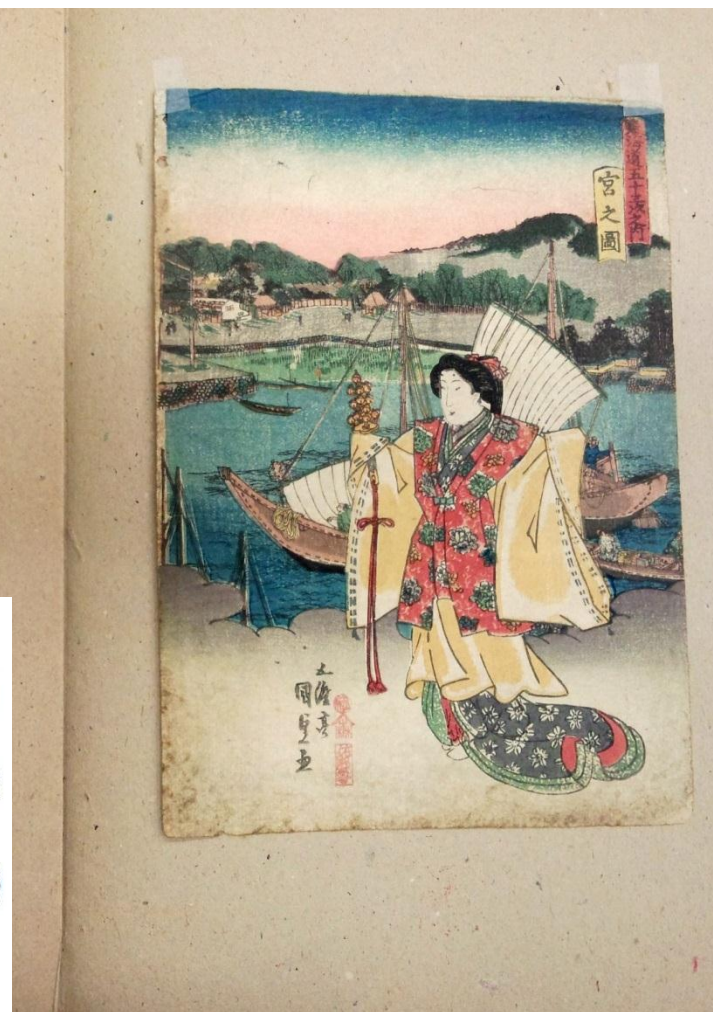
弘化元(1844)年兄弟子の2代目歌川
豊国を差し置いて豊国を襲名し、一時
豊国が2人いた時代(亀戸豊国時代)
がある。2代目死後は浮世絵師の大御
所として君臨。

長命で多作。

通称「美人東海道」42番 宮之図
41番鳴海までは同時期に先行して出た
廣重の東海道五十三次シリーズを背景
にしていた。人気絶頂の国貞が売出し
中の弟弟子廣重の絵を背景に採用した
とされる(盗作説も?)。42番「宮」以降
は、出版が追いついたらしく、全く別の
背景。なお、右のように版元表示が黒の
森屋治兵衛だけの絵は珍しい。



森治、佐野喜版
の制作者表示



五渡亭国貞時代の3代豊国
文化8(1811)~天保14(1843)

極印(検閲印)1つの時代
文化12亥年(1815)
~天保13寅年(1842)

版元 森屋治兵衛

版元 佐野屋喜兵衛



**7代目団十郎の海老蔵時代
(1832～1859)の景清。**

この図柄は珍しい。有名な都立図書館所蔵版は柱を振り回す図柄。

極印1つ(1815～1842)

版元 川口屋正蔵

**五渡亭国貞時代
(1811～1843)**



**「美人東海道」
「宮」と同時代
の作**

芳年武者无類

(ヨシトシムシャブルイ)

日本武尊 川上臯師 (カワカミタケル)

※川上は熊襲(クマソ)の別名

『芳年武者无類』は明治16～18年に芳年の描いた大判32枚シリーズの武者絵。

御届 明治16年12月7日

画工 月岡 米次郎 (月岡芳年)

出版人 小林 鉄次郎

彫工 宗岡

署名 大蘇 芳年画 (大蘇は晩年の雅号)

雅印 号 魁斎

月岡芳年 (ツキオカ ヨシトシ)

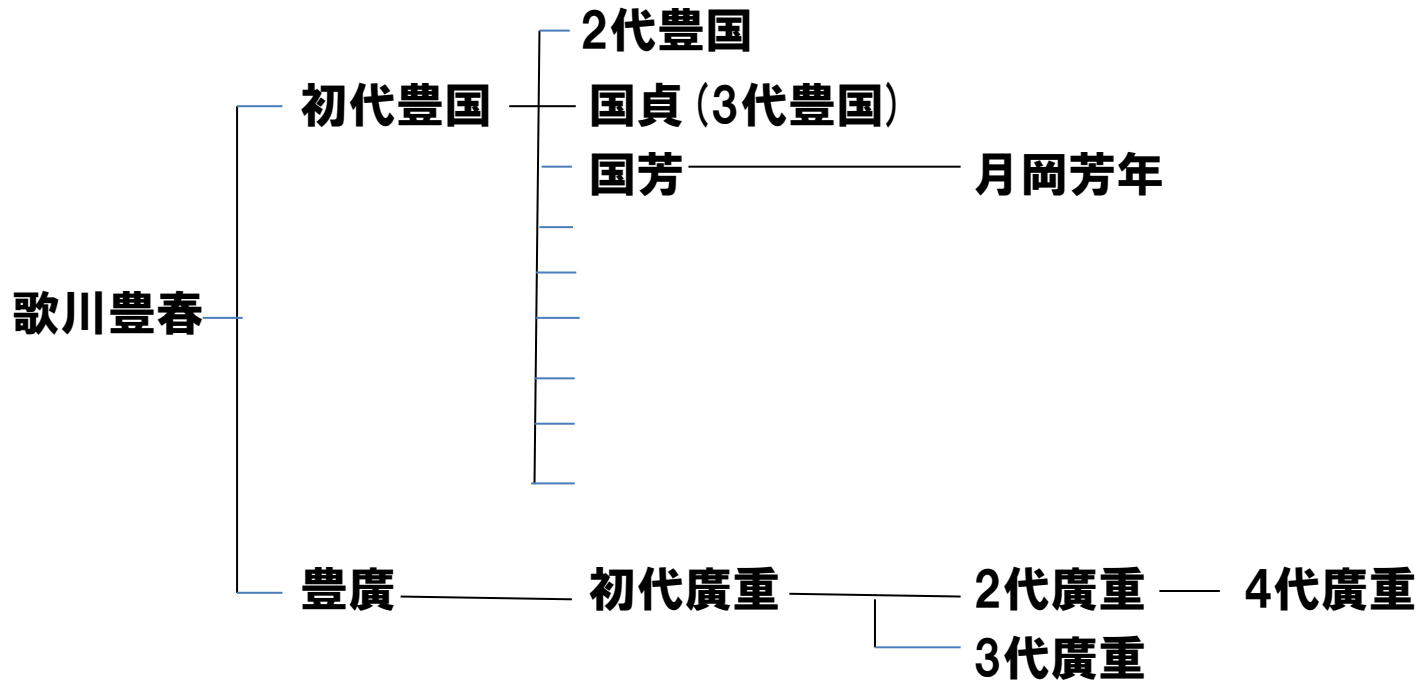
(1839～1892年)

幕末から明治初期に活躍した浮世絵師。歌川国芳に師事。浮世絵が衰退する中で最も成功した「最後の浮世絵師」と言われる。

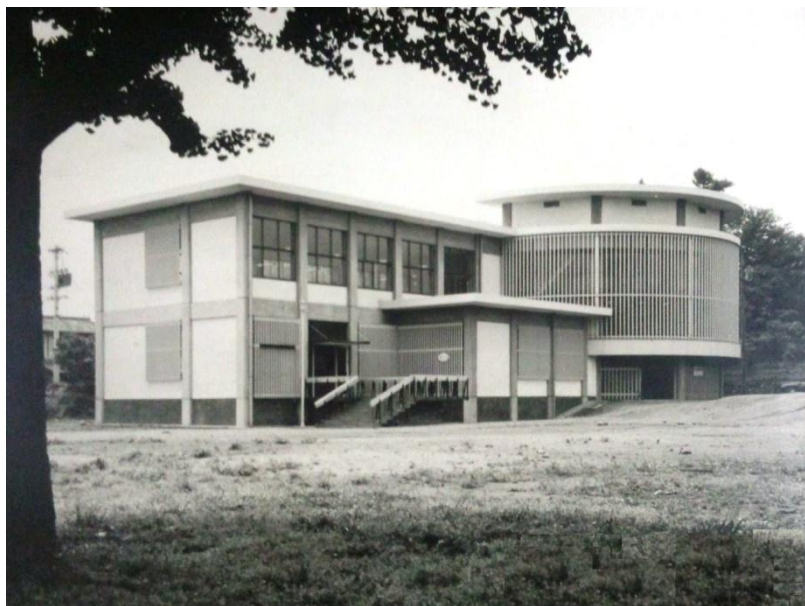
新聞・書籍の挿絵も含め、3代豊国に迫る多作で知られる。特に師国芳譲りの西洋の写実技法を、より発展させた武者絵に定評がある。また、「無残絵」も手掛けた。明治3(1870)年神経衰弱を患い、3年後に回復。病から蘇ったという意味で雅号「大蘇」を用いる。門下から多くの画家を輩出。



国貞、廣重、芳年の師弟関係



熱田図書館をご利用ください。



昭和35年
熱田神宮敷地内に開館した頃

現在
平成13年からJR熱田駅前に移転

